

<小学校 特別活動>

主体的に活動する児童を育てる学級活動

— 係活動の活性化の工夫を通して —

知念村立知念小学校教諭 玉城智子

目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究仮説	51
III	研究の全体構想図	52
IV	研究内容	
1	テーマについての基本的な考え方	
(1)	学級活動における係活動の意義	53
(2)	主体的に活動する児童像	53
2	係活動を活発にする援助の工夫	
(1)	係活動の目的・方法の明確化	54
(2)	活動の場の設定	56
(3)	一人一人のよさを生かす工夫	56
(4)	学級活動の評価の工夫	58
V	授業実践	
1	題材名	59
2	題材設定の理由	59
3	授業仮説	59
4	本時の展開	59
5	授業仮説についての分析	
(1)	仮説1の考察	59
(2)	仮説2の考察	59
VI	研究の成果と今後の課題	
1	成果	60
2	今後の課題	60

<小学校 特別活動>

主体的に活動する児童を育てる学級活動

— 係活動の活性化の工夫を通して —

知念村立知念小学校教諭 玉城智子

I テーマ設定の理由

主体的に活動する児童の育成は、変化の激しい今日の社会において急務とされる課題である。主体性のない児童は、ややもすると、情報の波に流れされ、自分の思考・判断による価値ある選択と責任ある行動をとりにくい。したがって、学校生活における望ましい集団活動の体験を通して、一人一人に問題を見つけて出し、意識し、考え、判断し、その解決のために、行動する主体的実践的な力を身に付けさせることは重要なことである。その中心的、基盤的な役割を果たすのが学級活動である。その中の係活動は、自分たちの学級生活上の諸問題や活動等に目を向け、それぞれの個性や能力を生かしながら、学級生活の向上・発展をめざし、自発的に仕事を分担して活動に参加していくことができる活動である。

しかし、学級の実態として、学年当初意欲に燃えて積極的に活動していた各係の活動も、学期を終わる頃には次第にマンネリ化し、活動にも消極的で教師の指示により動き出す児童が増えている。このことは、11月に実施したアンケートの結果からも明らかである。「係活動を進んでしていますか」の質問では「あまり活動していない」36.4%、「まったく活動していない」15.3%となっている。できない理由は、「活動する時間がない」「何をしていいのかわからない」が多くなっている。活動内容をみると「工夫している」15.6%、「決めしたことだけやっている」56.3%となっている。以上のことより、係活動が不活発な原因として、活動の目的があいまいになったり、方法がわからないことがあげられる。また、他の係との協力態勢も次第に薄くなったり、活動内容が固定化して創意工夫が弱まってくることも考えられる。教師自身も、児童が問題点に気づく前に待つことができなくて指示したり、活動の方向性を示さずにまかせたりというような指導になっていたことを反省する。

このような問題点を児童自身が自覚し、係活動を活性化させる方向で協力し努力するよう新たな動機づけや手立てを考えることは、学級生活の充実・発展にとって重要な課題である。以上のような問題点を解決し、主体的に係活動をすすめるためには、彼らに成就感や自信を与え、自己有用感をもたせることが大切である。そのためには、

- (1) 「何のために」「何を」「どのように」と目的・方法を明確にもたせ、理解させる。
- (2) 児童が自ら計画した方法で活動させる。

以上のことと視点をおき、体験を通して味わう成就感や自己有用感等を感じる場を多く与え、次の活動への意欲づけを図るような手立てを工夫する。これらの活動を積み重ねることによって、気づき・考え・行動するという主体的に活動する児童が育つと考える。さらに、教師の援助を工夫することによって、主体的活動を継続させることが大切である。

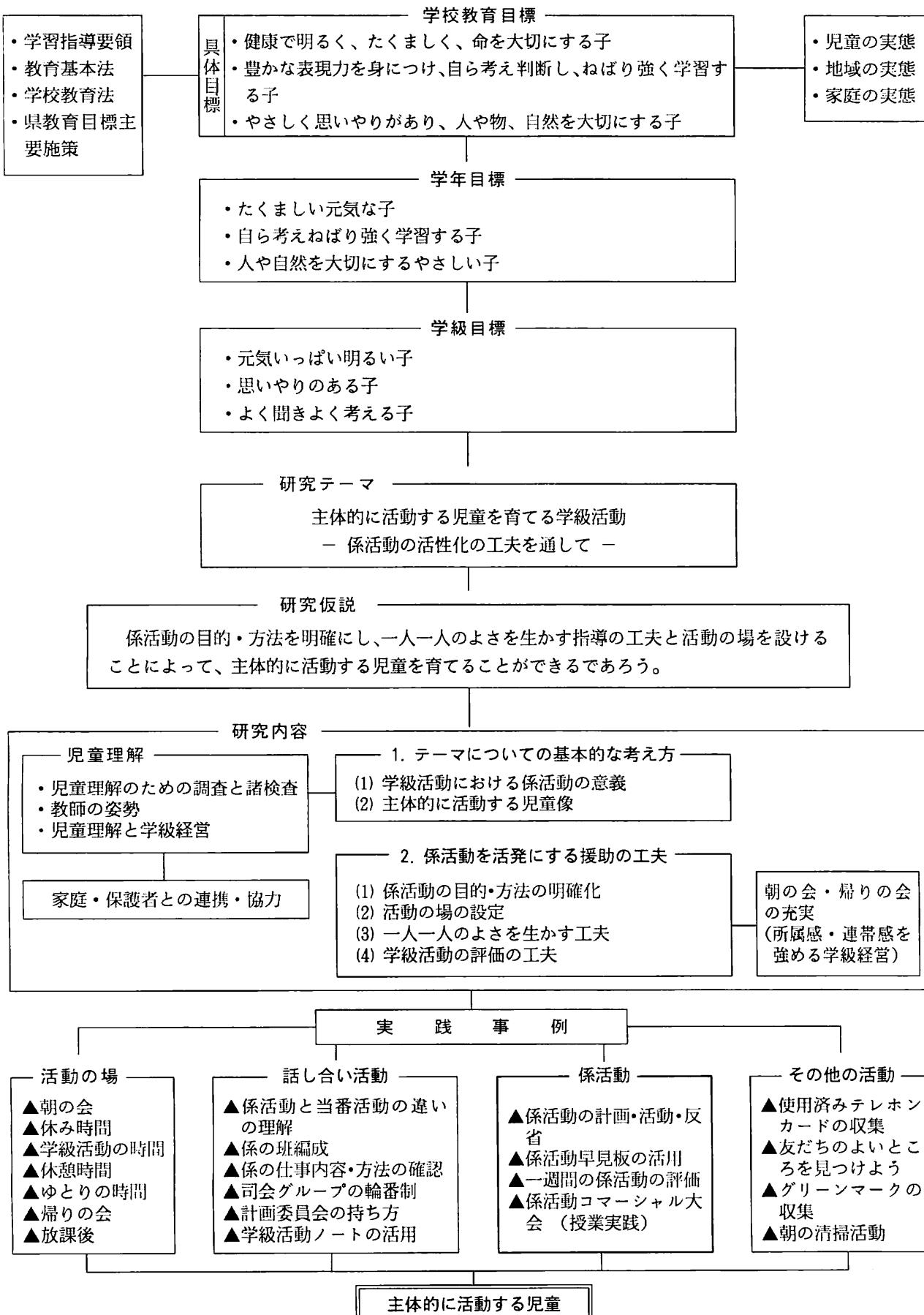
そこで、係活動の目的・方法を明確にし、一人一人のよさを生かす指導の工夫と活動の場を設けることによって、主体的に活動する児童が育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

係活動の目的・方法を明確にし、一人一人のよさを生かす指導の工夫と活動の場を設けることによって、主体的に活動する児童を育てることができるであろう。

III 研究の全体構想図

研究をすすめるにあたっては研究内容を整理し、全体を把握するために構想図に表してみた。



IV 研究内容

1 テーマについての基本的な考え方

(1) 学級活動における係活動の意義

特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

学級活動の目標

児童が自分たちの学級生活の向上を目指して、学級生活に関する諸問題の解決や仕事の分担処理などを自主的に行うとともに、生活や学習への適応及び健康や安全な生活など心身の健康を増進し健全な態度を身につける活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。

係活動のねらい

係の活動は、学級の児童が、学級内の仕事を分担処理するために、幾つかの係に分かれて自主的に行う活動であり、児童の力で学級生活を豊かにすることをねらいとしている。

これらを踏まえて、係活動の意義を次のように考えた。

- ① 学級生活の充実と向上のために、自分たちの能力の範囲内での必要な仕事に気づき、発見していくことから始まる活動である。
- ② 一人一人の児童がなんらかの役割を分担し、それぞれの個性を生かして創意・工夫、協力していく活動である。
- ③ 係の役割活動を通して、成就感や充実感、自己有用感を味わうことができる活動である。
- ④ 仲間と話し合い、創意工夫する係活動を通して、自主性と協力の精神を学び、活動意欲を高めることができる活動である。
- ⑤ 係活動は、学級生活をより充実した、より快適なものにするために計画し展開する自主的、実践的な活動である。
- ⑥ 活動内容と役割分担を明確にさせ、お互いに最後まで責任をもたせるようにすることによって、メンバーの連帯感を強めることができる活動である。

(2) 主体的に活動する児童像

児童一人一人がこれから社会において、心豊かで主体的、創造的に生きていくことのできる資質や能力を育成するためには、それぞれのよさや可能性を生かすことが大切である。そのことを踏まえ、児童が自ら考え、主体的に判断し、表現したり行動したりすることができる資質や能力を身につけることを重視して、学習指導を展開していかなければならない。

以上のことと踏まえて、図1のように学級活動の指導を計画・実践した。

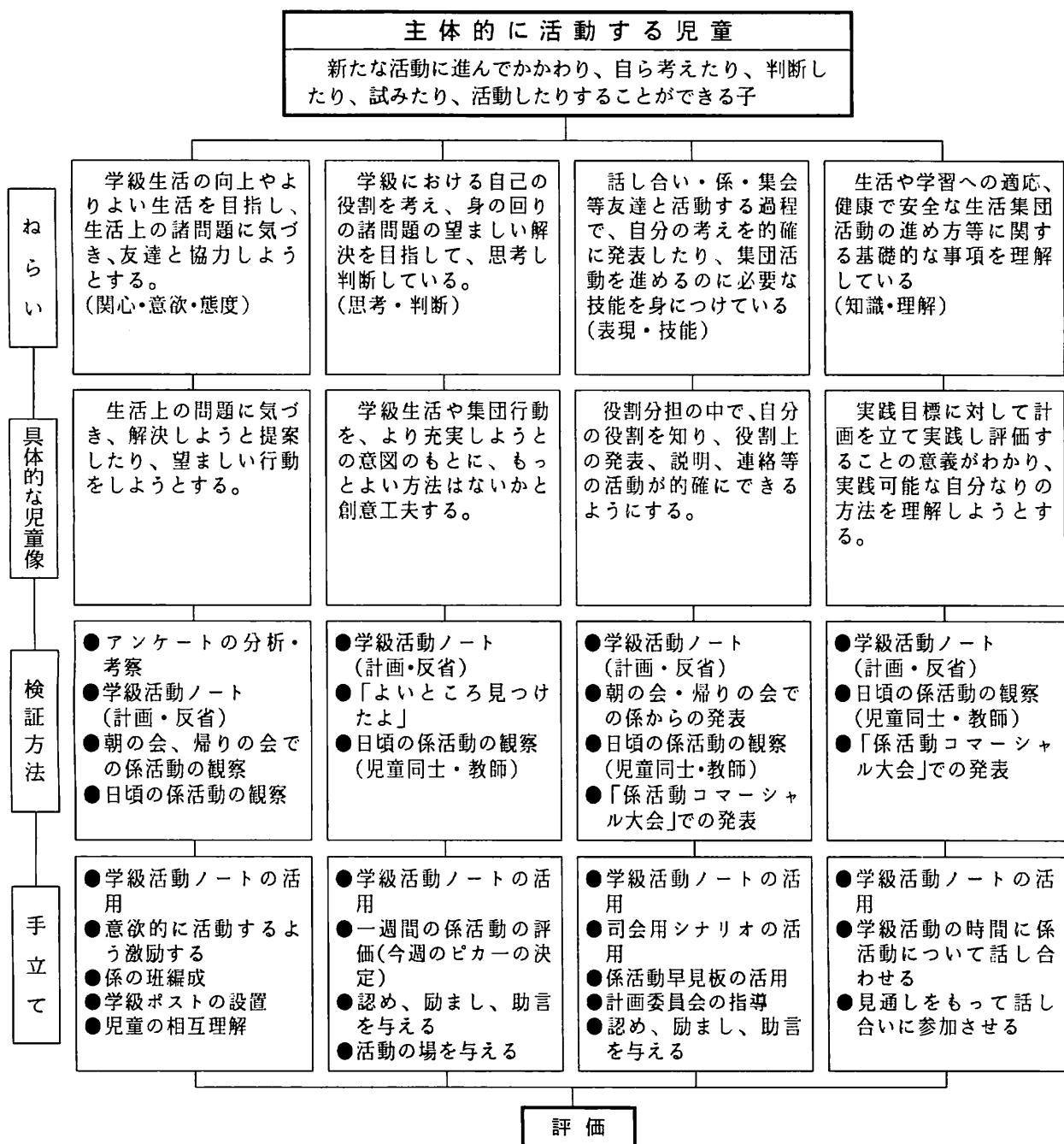


図1 主体的に活動する児童を育成する学級活動の指導計画

2 係活動を活発にする援助の工夫

係活動を活発にする援助の工夫として、まず、目的をしっかりとらえさせることが大切である。次に、児童にいつ、だれが、どの活動をどのようにするのかを明確にして計画を立てさせる必要がある。児童が係活動を継続できるように、時間と場を確保してやり、一人一人のよさが生かせるような活動の工夫も考慮しなければならない。

(1) 係活動の目的・方法の明確化

係活動を充実させるために、当番活動と係活動の仕事内容をはっきり区別させ、児童の創意工夫を生かせる係を設置する。一人一人が何をどのようにしたらよいかを考えながら活動できるように活動内容と役割分担を明確にする。

① 係活動と当番活動のちがい

係活動を活発にするために、表1のように係活動と当番活動のちがいをはっきり区別し指導していく必要がある。

表1 係活動と当番活動のちがい

係 活 動	当 番 活 動
<ul style="list-style-type: none"> ●児童の身近な問題を分担、処理していく活動である。 ●児童の創意工夫を生かした方法で、問題解決していく活動である。 ●児童の話し合いにより、方法・手順・役割分担等のくわしい活動計画を立てて実践する。 ●児童の必要性からつくられ、興味や関心、希望や特性を生かして所属が決められる。 ●学級生活の向上に結びつく活動である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教師が学級を経営していくのに必要な活動である。 ●教師の補助的な仕事が多く、初めから活動内容が決まっていて、創意工夫の余地が少ない活動である。 ●初めから決まっている仕事を、今まで通りの方法で解決していくため、ほとんどくわしい活動計画を立てる必要はない。 ●教師が中心になってつくられ、一日、週ごとの交代制で、学級全体が輪番で仕事を公平に割り当て分担する。 ●学級生活を管理する傾向が強い活動である。

② 係の班編成

係を決めるときはどんな係が必要かではなく、どんな活動をしてくれる人がいれば学級が楽しくよい学級になるか考えさせる。内容から必要な係を決めさせることが大切である。また、事前に自分はどんな活動をしたいのか、どのような活動をすればこの学級をより高めることができるのか、自分の考えをまとめ、話し合いをさせる。係によっては希望が片寄ることがある。その際、ジャンケンやくじ引き等で決めることは避け、教師が適切に助言して希望の変更を促す。

主体的に活動させるためには、係名を工夫することも大切である。目的のはっきりした係名は、児童の関心を高め、活動意欲を引き出すとともに、充実した活動へと導く。そこで、係名は、学級のみんなが親しめて活動内容がわかるようなものを考え、学級の全員が承認して決定する。

③ 活動の過程を大切にする（図2）

係が決まったら活動内容を考え、定例活動時間帯を

核として、一週間の活動計画を立てる。活動計画を立てることによって、見通しをもって活動に取り組ませる。また、役割分担をはっきりさせ、責任を持って進んで活動できるようにする。活動計画ができたら、みんなに公表する。その際、教師は、係活動を学級全体で期待しているという雰囲気作りをしながら励ます。児童の活動過程を大切にし、計画－活動－反省のサイクルを繰り返しながら係活動の充実・向上に努める。

ア 計画の段階 <話し合いの充実>

- これまでの活動の評価をし修正していく。それに基づき、活動のめあてを設定し、自分たちの力で活動計画を立てさせる。
- 自分の得意なこと、好きなことができそうな仕事を見つけさせ、計画を立てさせる。
- 仕事を固定化しないで、交代制を取り入れ、いろいろな仕事を体験させる。

イ 活動の段階 <実践意欲の昂揚>

- 受け持った仕事を計画的に実行していくには、自分たちだけで取り組むのではなく、自分の係以外の友だちにも積極的に働きかけることが大切である。友だちに対して協力依頼し、友だちからの協力を得ることによって、活動がより活発になってくる。
- 話し合い活動の中に「係の交代をしよう」「係の計画を知らせよう」等の議題を取り入れて、共通理解を図る。

係名	期日	やる仕事	時間	やる人	担当者(CD)
黒不 ^ト たつきうびん	3/10(月)～3/15(土)	コンクールをせいこうさせたい			
10月	10月	えんひつけこむーの会 あそびらせ ノート・プリント	1回の会 休み時間	まとか 4人	○
11火		休み			
12水		コンクールのじょうじょう作り ノート・プリントをくはる	さかうかい 時間 休み時間	4人 4人	○
13木		コンクール・ひょしじゅ ノート・プリントをくはる	帰りの会 休み時間	4人 4人	○
14金		かんじのあそび、こわいのあそび ノート・プリント	リモーブ会 休み時間	あつみ 4人	△
15土		ノート・プリントをくはる	休み時間	4人	△
一 反過 省間 の	しめきりの日をきめてなかった のであつまらなかつた。これから はたくさんあつまつようによく こううしていです。	先生	コンクールのお知らせは、1回だけですか なく、ガスターは、書いたりすると、みんな などおそれないと、思ひますよ。漢字 のあそび、こわいのあそびをしていま すよ。		

図2 活動計画表

- ・学級集会の一つとして、「係活動コマーシャル大会」を取り入れ、お互いの工夫等を出し合い、自分の係の計画の参考にする。
- ・活動の記録を積み上げることにより、活動の結果が目に見えるようにする。

ウ 反省の段階 <評価の実施>

- ・週末に一人一人の活動を認め励ますと同時に、一週間の活動を振り返る時間を取り、次の計画に役立てる。その時、どんな活動ができたか、活動を通してどんなことを学んだかを話し合う。

(2) 活動の場の設定

係活動を活性化し、児童が見通しをもって計画的に活動を進められるように定期的な活動時間の設定と学級活動コーナー等の場所の確保をしてあげる必要がある。

① 週時程への位置づけ (図3)

- ・毎週の学級活動の時間を確保し、月に一度はまとまった係活動ができるように配慮する。
- ・時間割表に係活動が可能な時間を明記し、児童には、無理なく続けることができる時間を見つけるよう助言する。
- ・係活動に見通しをもたせるために、月曜日に活動計画を立て、火曜日に活動の見直しをして、金曜日（土曜日）には帰りの会で一週間の活動の反省をさせる。

② 朝の会・帰りの会の活用

朝の会・帰りの会で係からの連絡やお願い・反省等が発表できるようプログラムの中に位置づけた。

③ 教室環境の整備 <気づき・考え・行動する>

	月	火	水	木	金	土
始業前	★	★	★	読書の日	児童朝会	読書の日
1・2校時						
休み時間	★	★	★	★	★	★
3・4校時						
給食・消掃						
休憩時間	★	★	★	★	★	★
5校時				★	★	
6校時			★	★	★	
帰りの会	★	★	★	★	★	★
放課後	★	★	★	★	★	
	活動計画	活動の見直し			活動の反省	

図3 週時程への位置づけ

ア 掲示板や小黒板の活用

教室に係の児童が自由に使える場所を設け、のびのびと活動することができる場を設定する。

イ 係活動早見板

今週の活動計画を各係が記入し、ポスターを貼って活動状況を知らせ、活動の評価をしていく。

ウ 学級活動コーナー

マジックセット、ものさし、はさみ、のり、画用紙、模造紙等の文房具類を常備し、いつでも児童がすぐに活動できるようにしておく。

(3) 一人一人のよさを生かす工夫

特別活動において「一人一人を生かす」とは、一人一人のよさを集団の中で最大限に發揮させながら、個性の伸長を図ることである。

一人一人が自分の持ち味を發揮して生き生きと活動するためには、学級活動の時間だけでなく、各教科や道徳の授業、朝の会・帰りの会等、一人一人にいろいろな機会を与えることである。その中で、他のよさを見出し、共感し、学び、そして自らを高めることができる。

一人一人のよさは、個人的に、あるいは全体の場で認め、学級通信や学級保護者会等あらゆる機会を通して効果的に称賛をおくる。そうすることによって、父母との連携を図る。

① お互いのよさを認め合う人間関係作り

教師が一人一人の違いを大切にし、常に児童のよいところを中心に見て、認め、ほめ、励ましていく。その中で、児童にも自然のうちに友だちのよさに気づくようにさせる。

「よいところを見つけたよ」の木に友だちのよいところをカードに書いて貼っていく。友だちのよいところを見つけ合う機会を作ると、友だちのよさだけでなく自分のよさも気づくことができる。自分でも気づかなかった自分のよさに気づくと、自分に自信がつき生き生きと行動するようになる。

② みんなの声を取り上げる場作り

一人一人を生かすためには、みんなの声を取り上げる場を作り、その子なりの考えを発表する機

会を多くしていくことも大切である。

- (例) • 帰りの会に「ニュースタイム」を入れ、地域社会や学校で起こっている出来事に対して、みんなで考えてもらいたいことや自分の感想を発表する。発表することによって、自分の周りの問題に気づき、自分なりに考えることができるようになる。出された問題をみんなの問題として共有化できれば、問題解決のための活動の手立てが見つかる。
- ふだん教師が気づかなかかった児童の心の奥にひそむものを知る手がかりとして、日記も生かした。その活用により、①話し合いのきっかけを作る②書いた文を通してその児童のことも集団の仲間に深く理解される③書いた文を学級の仲間に紹介することによって「ものの見方・考え方」が一層豊かになる④書かれている事実をもとに児童に働きかけ、行動が起こせる。

③ 司会の輪番制

帰りの会は司会を輪番制にして、学級全員が司会に当たるようにした。その場合、司会のシナリオを作って誰でも司会ができるよう配慮する。

④ 計画委員会の手立て

学級生活における諸問題の解決を図る活動や学級内の仕事の分担処理に関する活動は、すべて話し合い活動に始まり、話し合い活動によって進められる。話し合い活動は、学級活動の基盤となる活動である。そこで話し合い活動を児童自身で円滑に進めることができるように、計画委員会を組織する必要がある。計画委員会の取り組みを表2のようにした。

表2 計画委員会の取り組み

事前	1. 計画委員会は、輪番制によって児童が何かの役割を経験するように工夫して、一人一人の出番と役割を保障する。 ＜司会・副司会・ノート記録・黒板記録(2人)・観察・提案者＞ 司会グループを5～6人に分け、グループ内で役割分担をする。役割分担をするときには、メンバーの個性や能力に配慮する。 2. 活動計画の予定表を作成し、見通しをもって活動できるように工夫する。 3. 話し合い活動の原案と話し合いの台本(シナリオ)を作成し、話し合いを進める力をつけるように工夫する。 4. 話し合い活動のリハーサルを行う時間を確保し、自信をもって活動できるように工夫する。 5. 計画委員会を話し合いの二日前の休憩時間に開き、計画委員会で話し合われたことを帰りの会で予告してみんなに考えもらう。
話し合い活動	1. 話し合いの活動のパターン化を図り、司会・記録・発表の力を伸ばすように工夫する。 2. 自己評価や相互評価を取り入れ、お互いのよさを認めていく心を育てるように工夫する。 3. 支え合い・認め合い・高め合いの気持ちを大切にしていくように配慮する。 4. 観察係に名簿を渡し、発言したら印をつけさせ、話し合い活動の最後に発言できた子を発表させる。 5. 黒板記録は、話し合いの様子がわかるように出された意見は消さず、決まったことには印をつけさせる。 6. ノート記録は、決まったことを手短に発表できるようにさせる。 7. 副司会は、時間が伸びないように時間を知らせたり、司会の手伝いをさせる。
事後	1. 学級活動コーナーを設置し、活動計画や決定内容を貼り出して、見通しをもった活動や決定事項の徹底ができるようにする。 2. 計画委員会の反省を残し、次の活動を生かすようにする。

⑤ 学級活動ノートの活用

学級活動の話し合いをもとに活動していく過程の中で生じる様々な経験は、今後の活動の向上に役立つ大切な機会となる。したがって、活動過程をしっかりと記録に残し、気づかせていく必要がある。学級活動ノートには、話し合い活動の内容、係活動の計画・反省を記入する。それぞれに教師の助言・感想を入れ、励ます。学級活動ノートから、すばらしいアイディアをもっている児童やがんばっている児童を見つけて、みんなに紹介しほめる。

(4) 学級活動の評価の工夫

学級活動の評価は、特別活動の全体の目標を踏まえ、学級活動のねらいがどれだけ達成されたかが基本的な評価の観点となる。

学級活動の評価には、教師が行う評価と児童自身が行う自己評価や相互評価等がある。

① 係活動の評価（中学年）

創造的な活動作りをめざす評価をするために、

各係ごとの自己評価と学級全体の相互評価をする。

- 各係ごとに一週間サイクルの活動計画表を作成し、毎日活動状況を評価する。（図2）
 - 一週間の係活動の反省をし、各々自己評価して記入する。例は、図4の通りである。

＜記録及び評価の活動時程＞

- ・活動計画…月曜日の朝の自主活動の時間
 - ・活動打ち合わせと活動…朝の自主活動の時間
と隨時

・毎日の活動の記録…帰りの会

・反省…金曜日（土曜日）の帰りの会

- 各様の活動が創意工夫され、学級のために役に立つ活動であったかを学級全体で相互評価する

- ・各人が創意工夫し学級の役に立った係を一つ選び、「係活動早見板」のその係の

クを貼っていく。星のマークの多い係が“今週のピカ一”として認められる。

- ト・係活動及びその他の活動の観察等があげられる。その際、活動の結果ではなく過程を重視した評価をする。目指す児童像に近づけるよう認め、励まし、助言を与えることも重要である。

(ニュースの森) 係のはんせい 12/9(月) ~ 12/13(金)
 名前 (番号のみ)

1. 今週のめあて
おもしろいがみしばいを作てがんばる

2. 今週のはんせい

①自分からすすんでしごとをしたか。

②計画どおりしごとをしたか。

③なかよくしごとができたか。

④さいごまでしごとをしたか。

⑤くふうしながらしごとをしたか。

3. かんそう
まえのしんがん係よりよくでき本ので"そと
 いきぶりよししたい

図4 係活動の反省

V 授業実践

1 題材名 「係活動コマーシャル大会」

2 題材設定の理由

「係活動コマーシャル大会」で、各係がお互いに活動状況を発表することによって、係の仕事を充実させようとする意欲を高め、活性化を図り、活動が学級生活の向上に役立っていることに気づくことができる。また、一人一人が目的意識や役割をもった発表をすることによって、みんなが協力し合い、学級での所属感・成就感をもち、活動を楽しくしていこうとする意欲につながることをねらってこの題材を設定した。

3 授業仮説

(1) 各係で活動内容を発表し合うことによって、一人一人が他の係の活動内容を知り、これから活動に意欲を持つことができるであろう。

(2) 一人一人の役割をはっきりさせ、目的意識をもたせて、活動内容を発表させることにより、みんなで協力し合い、所属感・成就感をもち、主体的に活動する児童が育つであろう。

4 本時の展開

活動内容	児童の活動	教師の援助及び留意点	評価
1.はじめのことば	・「係活動コマーシャル大会」を始めます。	・自分の言葉でしっかり発表させる。	
2.歌をうたおう	・「ジングルベル」をうたいます。 ・「エーデルワイス」をリコーダーでふきます。	・楽しく歌うことによって、学級の雰囲気を和らげ活動意欲を盛り上げる。	関
3.役員の紹介 ・司会グループ・その他役割	・今日の司会は、コスモス係です。	・役割を紹介することにより、自信と自覚を持たせる。	表・技
4.めあての発表	・「係の仕事を知って、楽しく発表できるようにしよう」	・めあてを意識し、楽しい発表会にしようと意欲を持たせる。 ・大きな声で読ませる。	関
5.審査のしかたを発表する	・審査のしかたを知る。	・審査項目を全員にはっきりわからせる。	知・理
6.係活動コマーシャルの発表 ①がんばれファイト係 ②Vの炎係 ③レスキュー係 ④ニュースの森係	・友だちの発表を聞いて、メモをしておく。 ・他の係の活動内容を知る。	・機敏な行動、はきはきとした発表を心がける。 ・進行がスムーズにいくように司会の進め方をきびきびさせる。 ・お互いのよいところを見つけ、メモをさせる。 ・お互いによかったところを発表させ、次の活動への励みとする。	関 思・判 表・技 知・理 (ワークシート)
7.感想	・友だちのがんばった点、よかった点を発表する。	・子供たちのよさを取り上げ称賛し、活動への意欲づけを図る。	思・判 (ワークシート)
8.先生の話	・教師の話を聞く。	・後の4グループは、次の時間に発表をがんばるよう励ます。	
9.おわりのことば	・「係活動コマーシャル大会」をおわります。	・自分の言葉でしっかり発表させる。	
10.自己評価			

5 授業仮説についての分析

(1) 仮説1の考察

検証授業後のアンケートでは、「これから係の活動が今までよりもうまくできるようになるか」の問いに「はい」が63.6%で、「いいえ」が9.1 %になっている。このことから、約6割の児童が、係の仕事を充実させようとする意欲を高めることができた。また、「発表を見て、自分の係のほかにやりたくなった係があった」57.6%より、約6割の児童がほかの係のよさがわかった。どの係もみんなから、やりたい係に選ばれており、このことが自分の係に自信と誇りをもつことにもつながっていくと考えられる。

(2) 仮説2の考察

「係活動コマーシャル大会」の発表の準備をする際は、一人一人に役割を与え、充実感を持たせるように努めたことと、目的意識を持たせるために事前の話し合いを大切にした。その結果、検証授業

後のアンケートでは「自分たちの係は、みんなで相談してコマーシャル作りができた」72.7%となっており、約7割の児童が協力してコマーシャル作りしたことに対する充実感を味わっていることがわかる。

「自分たちの係の仕事をみんなに知らせることができた」60.6%、「クラスのみんなは、今までより自分たちの係に協力してくれる」60.6%となっており、約6割の児童が成就感をもつことができた。

「他の係がお願いしていることに協力したい」の項目では、約8割の児童が肯定し、否定している児童は0であることから、お互いに協力して係活動をやり上げていこうとする意欲が見られ、クラスの連帯感も高まった。

「自分の係が今までよりも、もっと好きになった」66.7%より、7割弱の児童が自分の係に愛着をもっていることがわかる。また、「発表を見て、自分の係のほかにやりたくなった係があった」57.6%となっている。これらのことにより、自分の係だけでなく、他の係のよさにも気づき、その係で活動してみたいという意欲につながった。つまり、望ましい集団として高まり、学級への所属感がより強くなったことが事後の調査結果からわかった。

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 係活動の目的を話し合い、方法を明確にすることにより、児童の活動意欲が高まり、さらに活動の創意工夫へつながった。
- (2) 一人一人のよさを生かす場面を多くもつことにより、成就感や自己有用感をもたらせることができた。孤立しがちな児童も他の面においても意欲的に参加することができるようになった。
- (3) 活動の時間と場を確保することにより、活動内容が充実し、楽しい係活動が展開できた。
- (4) 自分たちで活動計画をたて評価をさせることによって、見通しをもっての取り組み、責任ある活動ができるようになった。

2 今後の課題

- (1) 係活動を活性化するためには、学級活動の基盤となる話し合い活動を充実させるような指導の工夫をしていきたい。
- (2) 児童理解に努め、お互いのよさを認め合う人間関係作りを心がけた学級経営をしていきたい。
- (3) 児童の活動意欲を高める学級活動の評価を工夫していきたい。
- (4) 積極的に父母・地域との連携を図り、児童が学級活動で学んだことを地域の活動に生かせるよう配慮していきたい。

<主な参考文献>

質問項目					
			はい	ふつう	いいえ
① 楽しく係活動コマーシャルを発表できたか。		84.8	15.2	0	
② 自分たちの係は、みんなで相談してコマーシャル作りができたか。		72.7	24.3	3.0	
③ 自分たちの係の仕事をみんなに知らせることができたか。		60.6	30.3	9.1	
④ これから、係の活動が今までよりもうまくできるようになる。		63.6	30.3	6.1	
⑤ クラスのみんなは、今までより自分たちの係に協力してくれる。		60.6	27.3	12.1	
⑥ 他の係がお願いしていることに協力したい。		78.8	21.2	0	
⑦ 自分の係が今までよりも、もっと好きになった。		66.7	30.3	9.1	
⑧ 発表を見て、自分の係のほかにやりたくなった係があった。		57.6	33.3	9.1	

表3 検証授業後のアンケート (%)